

# 平成25年度 荒浜小学校 共同研究計画

## 1 研究テーマ・サブテーマ

自他の「いのち」を大切にしようとする子供の育成

～ 防災教育を通して ～

## 2 テーマ設定の理由

### (1) 教育の今日的課題から

平成7年に起きた阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、学校保健安全法に基づき学校安全計画の策定・実施、危険等発生時対処要領の作成、地域の関係機関等との連携など、様々な措置が講じられてきた。そして、平成20年に改訂された学習指導要領において、安全に関する指導の充実が図られてきたところである。

平成23年の東日本大震災を契機として、防災教育等の見直しが進められ、平成24年4月には防災を含む学校における安全に関する取組を総合的かつ効果的に推進するための「学校安全の推進に関する計画」を閣議決定した。

仙台市では、平成24年度に防災教育の基本的な方向を示し、防災教育モデル校を中心に全市的な取組を進めてきた。本校もまた、24年度、25年度と防災教育モデル校であり、今まさに、防災教育に取り組むことが求められている。

### (2) 本校の教育目標から

本校の教育目標は『豊かな心を持ち、自ら考え進んで行動する子供の育成』である。これまでも教育目標達成のために、日々の指導において、互いを思いやる気持ちや自発的な行動を取り上げ、称賛してきた。今年度は防災教育を通して、目指す子供たちの姿に迫っていききたい。

### (3) 子どもの実態とこれまでの取組から

本校の児童37名は、2年前の東日本大震災で津波の被害を受け、ほとんどの児童が家を失い、級友や家族をも失った児童も在籍している。時間の経過とともに、前回の津波浸水区域に家を建て直し、戻る子供も増えてきた。そして、命を守ることの難しさや大切さは身に染みて感じている子供たちではあるが、時間とともにその気持ちも薄れてきていることは否定できない。本校の児童は災害という「津波」が全てのように思いがちであるが、その他にも多くの災害があることを理解させることも必要である。

そこで、「みつめる力」を育てることによって「いのち」の尊さを自覚し、自他の「いのち」を大切にしたいと思う気持ちを、「かかわる力」を育てることで、周りの人とコミュニケーションを取り合い、自他の「いのち」を大切にしようとする子供を目指していききたい。

共同研究では、3年間「思いや考えを分かりやすく伝える子どもの育成」をテーマに掲げて、取り組んできた。昨年は国語科「話すこと・聞くこと」に重点を置き、受容的な態度で話を聞く子を育てることで、自分の考えをしっかりと伝えられる子供を目指してきた。その結果、東宮城野小学校との合同の授業でも、ポイントを押さえてメモをとる姿や、そのメモをもとに自信を持ってスピーチをする様子が見られるようになった。また、課題であった「対話力」の向上も認められた。

今年度は、これまでの取組で培われた力を生かして、自らの「いのち」を守るためにできることを考え実践できる子供を育てたいという願いを持って、本主題を設定した。

### 3 教科・領域等

全教育活動を通して指導していく。

ただし今年度の研究授業は以下の時間に行う。

- 1・2年 特色ある活動
- 3～6年 総合的な学習の時間

### 4 研究のねらい

「いのち」の大切さを再確認し、自らの「いのち」を自分で守り（自助）、周りの人達の力になろう（共助）とする子供を育むために、本校に適したカリキュラムや指導の在り方を、防災教育を通して探っていく。

学年部のねらい

下学年部

1・2年

危険を予測し、自分の身を自分で守ろうとする子供の育成。

上学年部

3～6年

災害への備えについて知り、周囲と協力し合って対応することができる子どもの育成。

### 5 研究の視点

- (1) 「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるための教材の工夫
- (2) 「いのち」を大切にしようと協力して行動させるための単元構想の工夫
- (3) 防災教育カリキュラムの改善

視点を設定するに当たって

本研究における「いのち」とは

生物学的な「命」と、人間らしく生きるという精神的な意味での「いのち」の両面と捉えていきたい。

視点1について

子供たちが生命の大切さを再確認することはもちろんのこと、自分を見つめ直し、自分や周りの人達を大切にしたいと思えるような授業を行いたい。そのために、それに適した教材を選択したり開発したりすることが必須である。

視点2について

復興のために頑張っている荒浜という地域や、今子供たちが住んでいる地域とつながりを持つことによって、たくましく生きようとする強い思いを持ち行動に表そうとする子供たちにしていきたい。子供の実践を後押しできるように、単元や1時間ごとの指導計画、授業の展開などを吟味する。

視点3について

24年度に作成した学年ごとの防災教育計画、年間指導計画、総合的な学習の計画（1・2年は特色ある教育活動計画）を子供たちの実態に合った教材を選択しながら改善し、実践しながら改善を図りたい。また、今年度配布された「防災教育副読本」の年間計画への位置付けも明確にしたい。

下学年部

- (1) 「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるための教材の工夫
  - ・アンケートや聞き取り調査で、子供の実態を把握し、子供の生活に密着した題材を選択する。
- (2) 「いのち」を大切にしようとして協力して行動させるための単元構想の工夫
  - ・いろいろな教育活動と関連を持たせ、活動と振り返りをバランスよく組み入れる。
  - ・分かりやすいように絵や図を使って、課題を提示する。
- (3) 防災教育カリキュラムの改善
  - ・変化する児童の実態や「特色ある活動」も活用することも考慮して、教科の枠にとられない幅広い視点で見直しをする。

上学年部

- (1) 「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるための教材の工夫
  - ・児童にとって、身近で実態に即した題材を取り上げる。
- (2) 「いのち」を大切にしようとして協力して行動させるための単元構想の工夫
  - ・主体的に取り組ませるために、日常生活における様々な災害を意識させる場を設定する。
- (3) 防災教育カリキュラムの改善
  - ・「防災教育副読本」の活用を中心とした年間指導計画を、実践を通して修繕・改善していく。

## 6 育てたい力・目指す子どもの姿

本研究では、育てたい力を「見いだす力」「みつめる力」「かかわる力」の三つとした。

本校の総合的な学習の評価がこの三つであることが大きな理由ではあるが、それぞれの意味付けを次のように考えた。

### 「見いだす力」

総合的な学習の時間において、課題設定が重要な意味を持ち、その後の内容を決定する柱ともいえる。よって、どの児童にも身に付けさせたい大切な力である。

### 「みつめる力」「かかわる力」

私たちは「いのち」を大切にしようとする子供を、他者とのかかわりを通して育てようとしている。つまり「いのち」をテーマに掲げることは、「自分づくり教育」と関連させて研究していくことに他ならない。なお、本校では今年度の「自分づくり教育」では「みつめる力」を重点項目に据えている。

#### 参考 「自分づくり教育」の視点

##### 「みつめる力」・・・「自己理解・自己管理能力」

- 自分のよさや他者との違いを理解できる力
- 自分の役割が分かる力
- 忍耐力やストレスをコントロールする力

##### 「かかわる力」・・・「人間関係形成・社会形成能力」

- 他人のよさや個性を理解できる力
- 考えや気持ちを伝え合い協力できる力
- 人や地域を大切にする力

Key word	育てたい力		目指す子供の姿		
			低学年	中学年	高学年
いのち	見いだす力 「いのち」にかかわる題材と向き合って、自分で取り組むべき課題を見いだす。〔課題設定〕		与えられた課題に自分なりの疑問や考えを持って、取り組む。	教師の助言を受けながら、疑問に思ったことや、調べてみたいことをもとに課題を設定する。	自分の気づきを大切にしながら、解決すべき問題をよく吟味して、自ら課題を設定する。
	みつめる力 「いのち」の尊さを自覚し、自分のよさに気づき、自他の「いのち」を大切にしたいと思う。〔思い・考え〕	自分づくり	自分のよいところを見つける。	自分のよいところや努力していることを見つける。	自分のよいところや努力していること、可能性を見つける。
		防災教育	校内・外の危険箇所に気づき、自分の身を守ろうとする。	いろいろな災害があることを知り、家族が災害に備えてできることを考える。	災害が起きるメカニズムや歴史などを理解し、自分や周囲の人が災害に備えてできることを考える。
	かかわる力 コミュニケーションを取り合い、他者の多様な考えや立場を理解して、自他の「いのち」を大切にしようとする。〔行動〕	自分づくり	出会った人にきちんとあいさつし、友達や家族と仲良く生活する。	身近な人と積極的にかかわり、友達や家族と協力して生活する。	荒浜や自分の住む地域の中でできることを行い、友達や家族と協力・協働して自分の役割を果たす。
		防災教育	大人や年上の人の言うことを素直に聞き考え、安全な行動をとろうとする。	災害時の対応の仕方などを家族と話し合い、自ら安全な行動をとろうとする。	復興に向けて取り組む人たちの気持ちを汲み取り、地域と共に安全・安心な生活をしようとする。

## 7 研究の方法

### (1) 授業研究

- ・指導案は略案でよい。(授業作り訪問を除く。)

＊形式は最後のページ参照

- ・学年部(下学年・上学年)を母体とした研究。

ねらいの設定や、カリキュラムの見直し、ねらいの具現化のための手だてを話し合い、実践する。

＊この場合の下学年は1・2年、上学年は3～6年とする。

- ・全員授業を行う。

事前検討会は学年部ごとに、事後検討会は全職員で行う。

昨年同様、7年部の先生方の授業提供もお願いする。ただし、教科は限定しない。検討会は持たず、参加者のアンケート提出を原則とする。

今年度の研究のまとめを授業作り訪問と捉え、来年度の研究の参考にしたい。

- ・事後検討会の持ち方は、協議・助言型(従来型)とする。

## (2) 文献研修

- ・ 職員一人一人が、よい文献の発掘にあたり紹介し合う。
- ・ 授業等で使いやすいソフトなど情報を提供し合う。

(お便り、掲示で使える CD-ROM の希望が多数。)

## (3) 職員研修

### ① 防災教育研修

○職員間で検討すること

- ・ 昨年度作成した学年ごとの「防災教育計画」「年間指導計画」「総合的な学習の計画（1・2年は特色ある教育活動計画）」の見直し。
- ・ 防災教育副読本の活用法と年間計画への位置付け。

○できれば、専門家から研修を受けたいこと

- ・ 児童の安全確保の方法。→ 消防署など
- ・ 自然災害の専門的知識。→ 応用地質（株）など

### ② その他の研修

- ・ 同僚性が高まり、指導力につながるような研修を随時行いたい。
- ・ 全職員が参加することは日程的にも難しいので、希望者のみの研修も行う。

希望 ・ 図工，体育，音楽，理科の実技研修

- ・ 算数教材作り
- ・ 楽しいクッキング（うどん，そばなど）
- ・ 軽めのスポーツ（バドミントン，ソフトバレー，ヨガなど）
- ・ パソコン研修（エクセル，ジャストスマイル）

### 今年度実施した研修

- 4月 食物アレルギー研修（東宮城野小と合同）
- 5月 救急救命法研修（東宮城野小と合同）
- 6月 防災ワークショップ
- 7月 心のケア研修
- 夏休み 算数教具作り・うどん作り・エクセル研修・道徳研修・防災カリキュラム作り

## 8 研究の進め方

### (1) 実態把握

- ・ 学校・学年独自のアンケートや仙台市教育委員会の「心と体の健康調査」を参考にする。
- ・ 日頃から、担任だけではなく全職員で子供の様子に注意を払い、変化に気付く。
- ・ カウンセラーの白石先生に気付いたことを報告してもらい、すぐに対処したい。
- ・ 保護者や地域の人などの声に幅広く耳を傾ける。

### (2) 子供たちの心のケア

- ・ 研究計画を進める上で、子どもの気持ちに配慮し、場合によっては方向を転換していくこともあり得る。家族構成，ストレスの度合い，健康状態，精神状態に常に配慮していきたい。

### (3) 東宮城野小学校との連携

- ・ 東宮城野小学校の25年度の共同研究は健康教育「歯科指導」。
- ・ 互いに指導案を配布し合い，参観可能な場合には授業を見合い，指導力の充実を図る。

(同学年の授業はなるべく見合いたい。事後検討会は実施しないこともある。)

- ・昨年度まで行ってきた合同の校外清掃，引き渡し訓練，避難訓練，交流学习に加えて，今年度は児童会主催のたてわりの遊び集会にも参加して，子供同士のかかわりも深める。
- ・両校にとって必要な研修は合同で行い，効率化を図る。

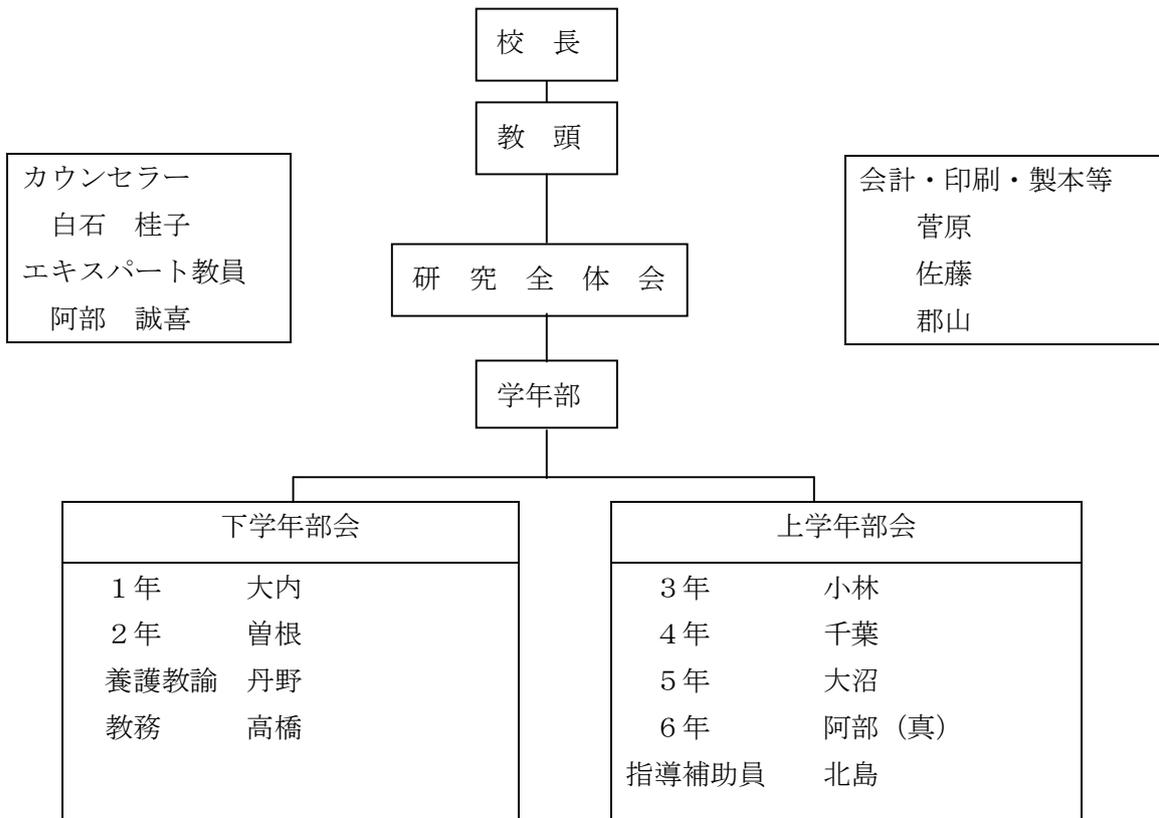
(4) まとめ方

- ・ 研究紀要は，ファイル式にする。
- ・ 学年部ごとに，年度末に研究の成果と課題を話し合っまとめて。それをもとに第2回研究全体会を開き，今年度のまとめと来年度のテーマ等を決定する。
- ・ 指導案を印刷して，全職員に配布する。(15部)  
東宮城野小学校職員分も印刷・配布する。(15部)  
\* 学校評議員，来年度の転入職員，教育センター保管用(10部)  
(座席表など個人情報が含まれていないもの)

(5) 啓発活動

- ・ 児童や教員が常に研究を意識して生活できるように，key word「いのち」を教室や職員室に掲示する。
- ・ 保護者には，本校の研究の在り方や成果などを，「ホームページ」や「学校便り」を通して伝える。

## 9 研究の組織



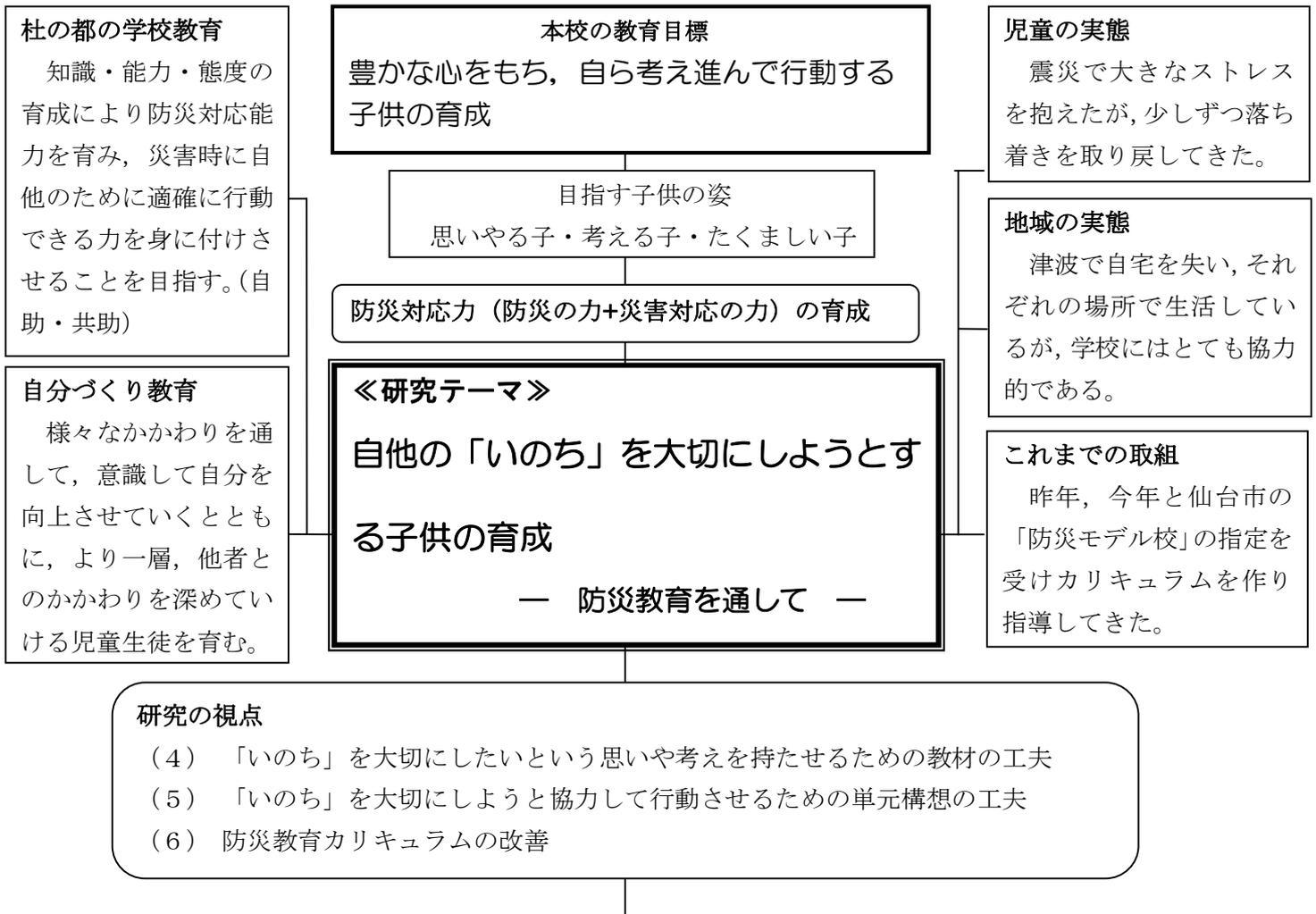
※必要に応じて，学年部を超えて協力して取組む。(指導案検討，研究授業の役割分担など。)

## 10 研究の計画

(合同とは、東宮城野小学校との合同研修会を指す。)

月	研究関係	主な行事など	研究授業等	職員研修
4		始業式・入学式 一年生を迎える会 学習状況調査		希望調査(研修・図書) 15日エピペン使用法講習会(合同)
5	研究全体会Ⅰ(テーマ・領域・ねらい・視点等) 学年部ごとの話し合い(ねらい・手立て) 職員会議(学年部のねらい・手立て)	体力テスト 運動会	学校独自のアンケート	15日 救命救急法研修会(合同) 17日 児童理解研修会
6	学年ごとの計画・実践	野外活動(4・5年) 修学旅行(6年)	修学旅行後 6年研究授業	
7		東荒まつり 個別面談	3年研究授業	29日 教育課程研究協議会(教育センター) 防災教育カリキュラム作りなど夏休み研修
8				教育課程伝講会(合同)
9		陸上記録会		
10		終業式・始業式 授業参観 遠足 学芸会	4年研究授業 「心と体の健康調査」	
11		就学時検診 全市一斉復興プロジェクト	5日 授業作り訪問① 指導案検討会 5年研究授業	
12	研究アンケート実施	土曜参観	4日 授業作り訪問② 1・2年研究授業	25日 教育課題研究発表会(教育センター)
1	研究アンケート提出・まとめ 学年部ごとの話し合い(今年度の成果と課題)			
2	研究全体会Ⅱ ・今年度の研究の成果と課題 ・次年度の研究の概要	感謝の会 授業参観		
3	カリキュラムの見直し	6年生を送る会 復興イベント 卒業式・終了式		

# 1 1 研究全体構想図



Key word	育てたい力	目指す子供の姿		
		低学年	中学年	高学年
いのち	<b>見いだす力【課題設定】</b> 「いのち」にかかわる題材と向き合っ、自分で取り組むべき課題を見いだす。	与えられた課題に自分なりの疑問や考えを持って、取り組む。	教師の助言を受けながら、疑問に思ったことや、調べてみたいことをもとに課題を設定する。	自分の気づきを大切にしながら、解決すべき問題をよく吟味して、自ら課題を設定する。
	<b>みつめる力【思い・考え】</b> 「いのち」の尊さを自覚し、自分のよさに気づき、自他の「いのち」を大切にしたいと思う。	校内・外の危険箇所に気づき、自分の身を守ろうとする。	いろいろな災害があることを知り、家族が災害に備えてできることを考える。	災害が起きるメカニズムや歴史などを理解し、自分や周囲の人が災害に備えてできることを考える。
	<b>かかわる力【行動】</b> コミュニケーションを取り合い、他者の多様な考えや立場を理解して、自他の「いのち」を大切にしようとする。	大人や年上の人の言うことを素直に聞き考え、安全な行動をとろうとする。	災害時の対応の仕方などを家族と話し合い、自ら安全な行動をとろうとする。	復興に向けて取り組む人たちの気持ちを汲み取り、地域と共に安全・安心な生活をしようとする。

## 資料 1

### 荒浜小学校における学校防災

# 学 校 防 災

《防災教育》  
子供が主体

《管理的・組織的防災》  
職員の取組

- ① 自分で自分の命を守る力を育む。(教科 特別活動 道徳 総合的な学習の時間 特色ある活動を通して)  
\*今年度の研究授業は、総合的な学習の時間、特色ある活動として行う。
- ② 他者や地域のために協力し、助け合う心の育成。(道徳 特別活動 全教育活動を通して)
  - ・児童会活動「東荒まつり」「復興イベント」「感謝の会」「お礼の手紙」など。
  - ・復興プロジェクト (毎月の奉仕作業)
- ③ 家庭での約束事を決め、学校と家庭が共通理解する。
  - ・我が家の防災カード
- ④ 児童と教職員で日常の人間関係、信頼関係を構築しておく。
- ⑤ 子供の実態にあった指導法の確立・定着。

- ① 施設設備の安全点検  
(毎月実施)
- ② 災害時に備えたマニュアルの整備  
「スクールバスの約束」  
「非常時のスクールバス運行について」
- ③ 職員配備体制
- ④ 職員研修
- ⑤ 平常時からの地域や  
P T Aとの連携・協力・情報交換

## 資料2 指導案の書き方

第○学年 特色ある活動学習指導案（1・2年）

総合的な学習の時間指導案（3～6年）

日時 平成○年○月○日（○）

指導者 仙台市立荒浜小学校

教諭 ○○ ○○

場所 ○年○組 教室

1 単元名

2 単元の目標

3 指導に当たって

指導者がどのように教材を理解し、児童の実態を踏まえてどのような提案をしていくか参観者のガイドを示します。

研究テーマとの関連に触れてください。視点に沿って具体的な手立てを示します。

4 指導計画

段階	活動名	主な学習内容	育てたい力
第○次 ○時間			(みつめる力)
			(かかわる力)

5 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

(2) 指導過程

過程	主な学習活動	主な指導・支援（視点）

(3) 評価

具体の評価規準	本時で達成したい具体的な姿 B
十分満足できる状況	Aと評価する具体的な姿
Cへの手立て	CをBに引き上げるための具体的な手立て

(4) 板書計画

\*通常「特色ある活動」では評価は行わないが、研究であることを考慮し、防災教育では評価も行うこととする。